

# 物理学における実在と測定

(科学基礎論学会・科学史学会共催ワークショップ)

オーガナイザ

稲葉肇 (慶應義塾大学文学部非常勤講師) (科学史学会会員)

北島雄一郎 (日本大学生産工学部)

提題者

森田紘平 (京都大学・JSPS)

山口まり (東京外国語大学非常勤講師) (科学史学会会員)

小澤正直 (名古屋大学)

コメンテーター：稲葉肇 (科学史学会会員)

司会：北島雄一郎

ミクロの世界に探究を進めた物理学者たちは、微視的対象の実在性はどのようなものなのかという存在論的側面と、その対象をどのように測定するのかという認識論的側面を議論してきた。そして、現在の科学哲学においてもこうした議論は重要な問題となっている。その観点から考えると、この話題は、日本科学史学会と科学基礎論学会の会員の両方にとって重要であろう。そこで「物理学における実在と測定」と題した日本科学史学会と科学基礎論学会の連携ワークショップを企画した。

本ワークショップでは具体的には、ボーアの哲学の思想史的検討(森田紘平)、顕微鏡を通して我々が可視化しているものは何かという問題の科学史的な考察(山口まり)、そして、ハイゼンベルクによる不確定性原理の成立過程、及び、現代物理学におけるその破綻と新生の過程の検討(小澤正直)を行う。これらの話題を論じることを通して、前年度の共催ワークショップに続き、日本科学史学会と科学基礎論学会との間の生産的な交流のきっかけとしたい。

本ワークショップの進行の予定は、以下の通りである。

9:30-9:35	北島雄一郎	ワークショップの趣旨説明と発表者の紹介
9:35-10:10	森田紘平	1920年代後期におけるボーアにとっての観測と実在
10:10-10:45	山口まり	電子顕微鏡像の解釈をめぐる歴史： 測定法とシミュレーション
10:45-11:20	小澤正直	ハイゼンベルクの不確定性原理の成立・破綻・新生
11:20-11:30		休憩
11:30-11:45	稲葉肇	コメント
11:45-12:00		フロアからの質問